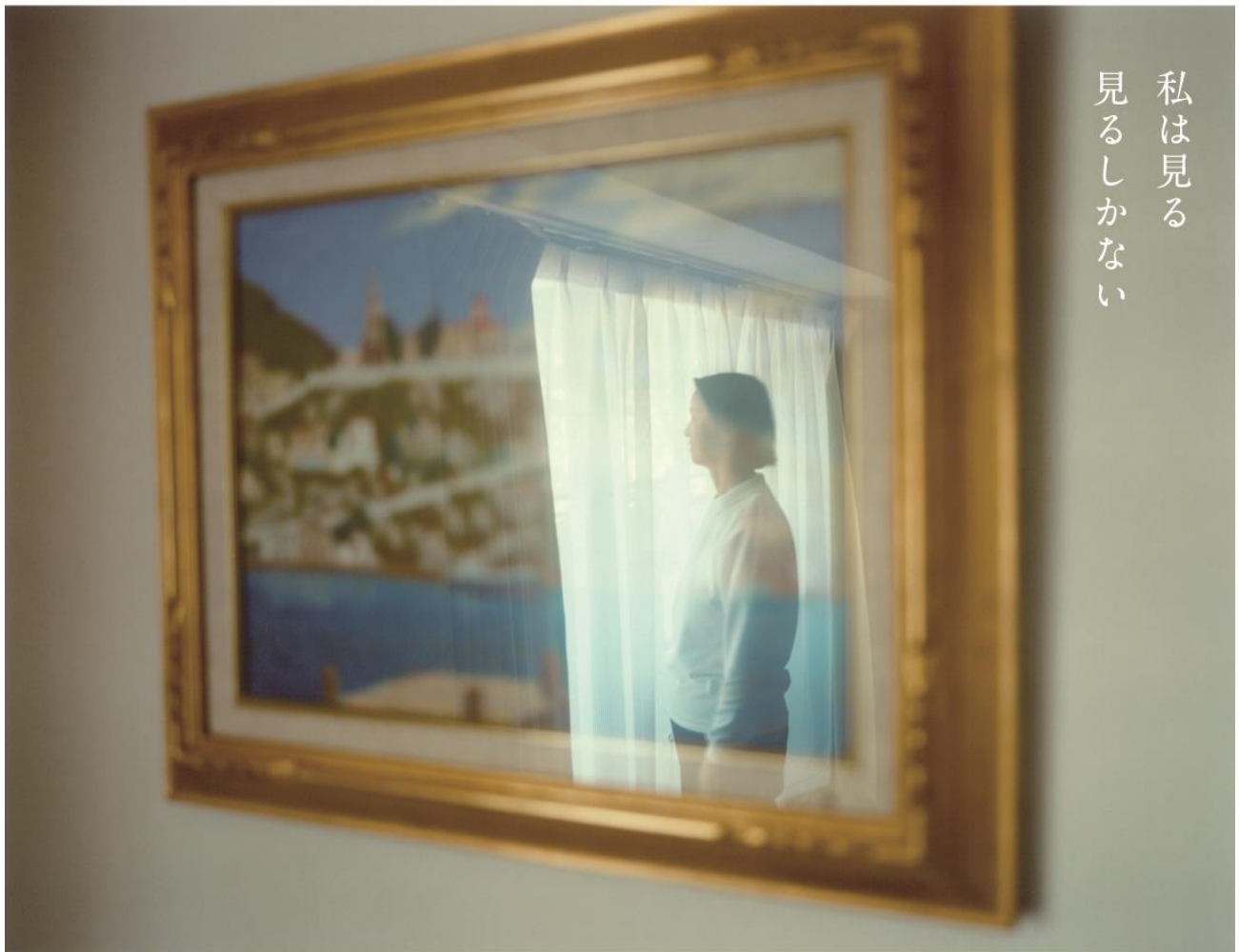


PRESS RELEASE

art trip vol.01 | Outside the Window Awaits a Journey of Love



私は見る
見るしかない

窓の外、恋の旅。

風景と表現

会 期	2014年9月27日(土)－11月30日(日)
開館時間	午前10時－午後5時(入館は午後4時30分まで)
会 場	芦屋市立美術博物館 第1、2展示室、ホール
休 館 日	月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は翌火曜日)
観 覧 料	一般 500(400)円、大高生 300(240)円、中学生以下無料 <small>※同時開催「芦屋の歴史と文化財」展の観覧料も含む ※()内は20名以上の団体料金 ※高齢者(65歳以上)および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方ならびにその介護の方は各当日料金の半額になります。</small> ○観覧料無料の日:11月15日(土)、16日(日)「関西文化の日」
主 催	芦屋市立美術博物館
後 援	兵庫県、兵庫県教育委員会、公益財団法人兵庫県芸術文化協会、神戸新聞、NHK 神戸放送局、FM802、Kiss FM KOBE、ジュンク堂書店芦屋店
協 力	Gallery PARC、京都芸術センター制作支援事業

PRESS RELEASE

開催趣旨

古来より、いつの時代も人々は、花見や紅葉狩りなどで季節を楽しみ、名勝地や景勝地の風景を愛で、海や川、空の色合いの美しさや山並みの雄大さといった自然美や都市の情景など、生活の中にある風景を享受しながら、四季折々の風景を楽しむことで日々の暮らしに彩りを添えてきました。

そのような居心地のよい風景は、天災や人災などで一瞬にしてなくなってしまうことがあります。故郷や思い出の景色、ありふれた日常の風景は、失って初めて大切さを知ることになるかもしれません。

本展では、「風景」をテーマに、絵画、映像作品、写真作品とあわせ、文学の一つである詩を展示します。芦屋ゆかりの画家である小出櫓重や吉原治良、村上三郎や写真家のハナヤ勤兵衛らの作品とともに、国内外で活躍する下道基行(美術家/写真家)、林勇氣(映像作家)、ヤマガミユキヒロ(美術家)ら若手作家3名と、日本を代表する詩人の谷川俊太郎の作品を展示します。絵画や映像、写真の作品とあわせて文学の一つである詩を展示し、美術と詩の関係をさぐりながら、近現代の風景表現の流れを見ていきます。そして、我々をとりまく環境と改めて向き合いながら、かけがえのない存在である風景の力を感じていただきたいと思います。

みどころ

絵画、写真、映像、そして詩。—新作を中心に

本展では、絵画や写真、映像、詩による作品約40点を展示します。

日本の近代洋画を代表する小出櫓重の自然を捉えた風景画、具体美術協会(具体)のリーダーであった吉原治良のシュールレアリスムのイメージの風景画、昭和・平成を通して活躍したハナヤ勤兵衛の叙情的な風景写真、具体メンバーの村上三郎による、“額縁のフレームを松の木からぶら下げ、日常の風景をトリミングして鑑賞する”コンセプトの作品などを展示します。

現代美術では、“日曜画家であった祖父が描いた作品を探す旅で出会った作品を取り巻く人々とその風景を作品にした”下道基行、“現実世界の物質を写真におさめ、それらを切り取りパソコン上で合成したアニメーション映像として新たな風景を作る”林勇氣、“ランドマークのある風景を細密に描いた上に同所で撮影した映像を重ねるキャンパス・プロジェクションのスタイルで制作する”ヤマガミユキヒロら若手作家が作り出す作品を展示します。

さらに、あわせて、絵本やエッセイ、翻訳、脚本、作詞など幅広く作品を発表し、近年では詩の可能性を広げる新たな試みを行っている日本を代表する詩人の谷川俊太郎の詩を展示します。

当館の所蔵作品とともに、**本展のために新しく制作された作品や書き下ろしの詩、新たに構成された作品などから**風景表現の世界を紹介し、風景と人間の関係性を見ていきます。

キーワードは「恋」。

ありふれた事柄も恋をするときらきらと輝きが増し楽しい日々、そんな経験をしたことがあるでしょう。目に触れるものが全てが素敵に見えてくる、そんな魔法の鍵の一つである「恋」。歩きなれた道や見慣れた風景も、視点が変わることによって様々な事柄に気づき、多くの感動に出会えることがあります。また、**「恋」には、植物や土地、季節、過去の時など、彼方に存在する対象を慕う心の意味も持っています。**

彼らが生み出した風景の中を歩くことで、みなさんが今まで出会った、これから出会うかもしれない風景へと思いを馳せていただきたいと思います。また、本展が心の風景を追想することができる一つの窓として、また、これから出会う新たな風景への旅の一步としていただければと考えます。

会期中、さまざまなイベントを予定

林勇氣による映像と音楽のライブや谷川俊太郎の朗読会、描かれた実際の風景を訪れるヤマガミユキヒロの街歩きイベント、若手作家たちのアーティスト・トークのほか、谷川と共に絵本『よるのようちえん』(1998年、福音館書店 *第17回ブラティスラヴァ世界絵本原画展グランプリ受賞)を制作した中辻悦子(造形作家)による風景画制作のワークショップを開催します。

鑑賞とともに様々な関連イベントから「風景」を体験していきます。

PRESS RELEASE

出品作家



下道基行（1978年ー）

岡山生まれ。美術家／写真家。武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業。写真や文章を表現手段に、モノ／コトの残り方／消え方や、目の前に広がる風景の在り方に興味を持ち、旅やフィールドワークをベースに、展示や出版等で表現を続けている。



©深堀瑞穂

谷川俊太郎（1931年ー）

東京生まれ。詩人。1952年、詩集『二十億光年の孤独』でデビュー。鋭い感受性を的確なことばで表現した作品群で、新鮮な衝撃を与えた。翻訳、劇作、絵本、作詞などジャンルを超えて活躍。読売文学賞、日本翻訳文学賞、野間児童文芸賞、萩原朔太郎賞、鮎川信夫賞ほか受賞多数。



©表恒匡

林勇気（1976年ー）

京都生まれ。映像作家。1997年より映像作品の制作を始める。1999年から2002年まで、映像作家 大木裕之の作品に参加。国内外の美術展や映画祭に出品。自身で撮影した膨大な量の写真を、コンピュータに取り込み、切り抜き重ね合わせることでアニメーション作品を作る。宝塚大学造形芸術学部准教授。



ヤマガミユキヒロ（1976年ー）

大阪生まれ。美術家。京都精華大学美術学部卒業。都市の景色をビデオなどでスケッチし、絵画や写真、映像など対象に合わせたメディアを用いて表現。絵画と映像を使用したキャンバス・プロジェクションという手法で風景の印象の作品を制作する。



小出梢重（1887年ー1931年）

大阪生まれ。洋画家。1919年二科展で「Nの家族」が犇牛賞受賞。1923年二科会会員となる。翌年、洋画家の鍋井克之らと共に大阪で信濃橋洋画研究所を創立。1926年芦屋に転居、翌年アトリエを構え、裸婦像を中心とする油彩画やガラス絵、挿絵などを手がけた。



ハナヤ勘兵衛（1903年ー1991年）

大阪生まれ。写真家。本名桑田和雄。1929年、芦屋市に写真材料店を開店。翌年、彼の店に集った人々により芦屋カメラクラブが結成された。写真家として活躍するとともに、小型カメラの開発やアマチュア写真の育成に力を注ぐなど、その活動は多岐にわたった。



村上三郎（1925年ー1996年）

兵庫生まれ。美術家。1952年、白髪一雄、金山明らと「O会」を結成、翌年、吉原治良と出会い1955年具体美術協会に参加。ハトロン紙を袋貼りにした屏風を身体でつき破る作品によって新境地を開く。その後、観念的な作風を示す一方、能動的な絵画も制作、国内外で多数作品を発表した。



吉原治良（1905年ー1972年）

大阪生まれ。前衛画家。中学時代より油絵を独習後、洋画家上山二郎に兄事する。藤田嗣治の勧めで出品した第21回二科展で初入選。戦後は二科会再建参加や芦屋市美術協会結成、現代美術懇談会発足など関西の前衛画壇をリードした。1954年具体美術協会を結成、20世紀後半で最も重要な美術運動の一翼を担った。

PRESS RELEASE

関連事業

9月27日(土)

16:30~18:00(予定)

(1) オープニングイベント 映像と音楽によるライブ

出演:林勇氣(映像作家)、polar M(音楽家)、米子匡司(音楽家)

会場:芦屋市立美術博物館 庭 ※雨天の場合は館内

参加費:無料(ただし要観覧券)

協力:night cruising

10月4日(土)

14:00~15:30

※事前申込制

(2) 講演会「谷川俊太郎さんの朗読とお話」

講師:谷川俊太郎(詩人)

会場:講義室/定員:90名

参加費:無料(ただし要観覧券)

■申込方法:往復はがきにてお申し込みください。9月20日(土)必着。

応募者多数の場合は抽選。

10月25日(土)

13:00~17:00

※事前申込制

(3) 街歩き「作者と巡る風景」

講師:ヤマガミユキヒロ(美術家)

訪問先:阪神間の名所(西宮・芦屋などを予定)/定員:20名

参加費:300円(資料、保険代等)(予定)

■申込方法:芦屋市立美術博物館へお電話ください。10月1日(水)より受付開始。

定員に達し次第締切。

10月26日(日)

14:00~16:00

※事前申込制

(4) ワークショップ「展覧会の風景」

講師:中辻悦子(造形作家)

会場:体験学習室/定員:20名(小学生以上)

参加費:無料(ただし要観覧券)

■申込方法:往復はがきにてお申し込みください。10月15日(水)必着。

応募者多数の場合は抽選。

①11月9日(日)

②11月16日(日)

③11月23日(日・祝)

いずれも

14:00~15:30

(5) アーティスト・トーク

講師:①林勇氣(映像作家)/②ヤマガミユキヒロ(美術家)/③下道基行(美術家/写真家)

会場:講義室/定員:90名

参加費:無料(ただし要観覧券)

・10月11日(土)

・11月1日(土)

いずれも

14:00~15:00(予定)

(6) ギャラリートーク

講師:当館学芸員

参加費:無料(ただし要観覧券)

【(2)(4)のお申し込み方法】

往復はがきに参加希望者全員の氏名(2名まで連名可。お子さまは年齢・学年も)、代表者の住所・電話番号と希望のイベント名を明記のうえ芦屋市立美術博物館までお送りください。応募者多数の場合は抽選、申し込み締め切り後、応募者全員に返信します。

会期中のその他イベント

11月2日(日)

14:00~15:30

ミュージアムコンサート「ノルウェーの自然をこよなく愛したグリーグの“歌曲とピアノ曲”の調べ」

演奏:I LOVE ASHIYA/会場:講義室/参加費:無料(ただし要観覧券)

10月4日(土)・5日(日)

10:00~16:00

芦屋アートバザール

会場:芦屋市立美術博物館 庭 (※雨天中止)

PRESS RELEASE

作 品



1 |



2 |

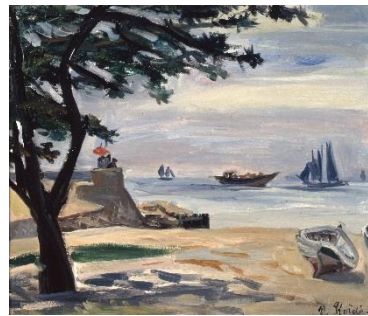


3 |

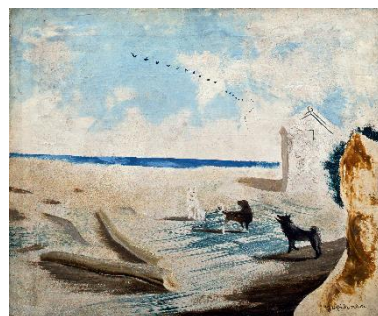
途次

私は見る
見つづける
線路ぎわの木々のさやぎ
窓の中でゆるやかに動く人影
錆びついた自転車
かくされた限りなく豊かなもの
かくされたいけにえ
まばゆさに目を細め
私は見る
からみあう道の網目にとらえられ
もがく家々
その内部の今日一日
泣きわめく子どもらとともに
うづくまる老婆とともに
音楽のように過ぎ去るいま
私は見る
見るしかない

4 |



5 |



6 |



7 |



8 |

「art trip vol.1 窓の外、恋の旅。／風景と表現」展の画像データをプレス掲載用にご用意しております。ご希望の際は別紙（申込用紙）にご記入のうえ、当館までご連絡ください。

※画像掲載の際には下記作品クレジットをご明記ください。

1 |

下道基行 《日曜画家／Sunday Painter》
2006-2010年 タイプCプリント 作家蔵

2 |

林勇氣 《overlap》
2012年 HDビデオ 作家蔵 *参考図版

3 |

ヤマガミユキヒロ 《東京駅の眺望(後期)》
2012年 キャンバス・プロジェクション 作家蔵
*参考図版

4 |

谷川俊太郎 「途次」『手紙』所収
1984年 集英社刊

5 |

小出楯重 《海辺風景》
1930年 油彩・布 当館蔵

6 |

吉原治良 《犬と雁》
1931年 油彩・布 当館蔵

7 |

村上三郎 《あらゆる風景》
1956年(1993年再制作) 木 個人蔵
「野外具体美術展」(1956年)

8 |

ハナヤ勸兵衛 《木のある風景》
1963年 ゼラチンシルバー・プリント 当館蔵

PRESS RELEASE

作家関連情報

下道基行

個展

2014年11月22日(土)ー30日(日)(予定)

*休廊日:11月25日(火)

入場無料

会場:リバーサイド・アジール(大阪府大阪市此花区梅香 1-15-18)

谷川俊太郎

新刊 『おやすみ神たち』

2014年10月刊行予定

写真家・川島小鳥氏との初共著。〈タマシヒ〉という、目に見えないものを描き出そうとした意欲作。

176ページ、予価 2500円+税。ナナロク社刊

林勇気

i want you あなたがほしい

2014年10月25日(土)ー27日(月)

入場無料

会場:吹田市歴史文化まちづくりセンター「浜屋敷」(大阪府吹田市南高浜町 6-21)

ヤマガミユキヒロ

TARO 賞の作家Ⅱ展

2014年10月18日(土)ー2015年1月12日(月・祝)

*休館日:月曜日(ただし祝日の場合は翌火曜日)、12月24日、12月29日~1月3日

観覧料:一般 900円、高・大学生・65歳以上 700円、中学生以下無料

会場:川崎市岡本太郎美術館(神奈川県川崎市多摩区枳形 7-1-5)

問い合わせ先

【企画内容に関して】 担当学芸員:大槻 晃実 TEL:0797-23-2666(学芸直通)

【画像貸出など広報について】 総務課 TEL:0797-38-5432(代表)

芦屋市立美術館

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町 12-25

◇ホームページ:<http://ashiya-museum.jp/>

◇ツイッター:@ashiyabihaku QRコード



窓の外、恋の旅。

風景と表現

FAX 連絡先
(0797)38-5434

ご希望の写真番号に○をつけてご返送をお願いいたします。本展をご掲載いただける場合、読者・視聴者プレゼント用招待券(10組20名様まで)もご用意しておりますので、お気軽にご連絡ください。

番号	作家名・作品名・制作年・素材・所蔵元など
1	下道基行 《日曜画家/Sunday Painter》 2006-2010年 タイプCプリント 作家蔵
2	林勇氣 《overlap》 2012年 HDビデオ 作家蔵 *参考図版
3	ヤマガミユキヒロ 《東京駅の眺望(後期)》 2012年 キャンバス・プロジェクション 作家蔵 *参考図版
4	谷川俊太郎 「途次」『手紙』所収 1984年 集英社刊
5	小出櫓重 《海辺風景》 1930年 油彩・布 当館蔵
6	吉原治良 《犬と雁》 1931年 油彩・布 当館蔵
7	村上三郎 《あらゆる風景》 1956年(1993年再制作) 木 個人蔵 「野外具体美術展」(1956年)
8	ハナヤ勘兵衛 《木のある風景》 1963年 ゼラチンシルバー・プリント 当館蔵

貴社名	
媒体名	(新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・その他)
ご担当者名	
ご住所	〒
電話番号	TEL FAX
メールアドレス	@
URL	
掲載・放送予定日	
写真到着希望日	
招待券希望枚数	組 名分希望

写真データの使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを当館までお送りくださいますようお願い申し上げます。

また本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合には、事前にご連絡ください。